

堺のがんばる企業応援マガジン

さかい

IPC

SAKAI CITY
INDUSTRIAL PROMOTION CENTER
PRESS

PRESS 2012.1 Vol.22



特集・いまを見据え、あしたに活かす

夢に向かって、挑戦し続ける

INDEX

特集・いまを見据え、あしたに活かす 1

株式会社 アールテクス
株式会社 エスディーシー
株式会社 AB size (エービーサイズ)

気になる「さかい人」録 9

ヒマラヤの麓の小さな村に
初めての中・高校を建設
AAF 理事 野田隆史さん

さかいモノ語り 11

二百年余りの歴史を礎に、
新感覚の製品づくりに挑戦
大響株式会社

財団法人
堺市産業振興センター

Sakai City Industrial Promotion Center <http://www.sakai-ipc.jp/>

夢に向かつて、挑戦し続ける

新しい年が明けました。新年最初の号では、社会の厳しい経済環境のなか、壮大なビジョンを描き、その実現に向けて挑戦し続けている企業3社をご紹介します。それぞれ活躍する舞台は違えども、共通しているのは経営者の国境にとらわれないグローバルな視点と熱い情熱でした。

「人を助ける技術創造」を理念に、 手指リハビリロボットを開発

株式会社アールテクス 積山 彰社長

つらいリハビリを ロボットがサポート

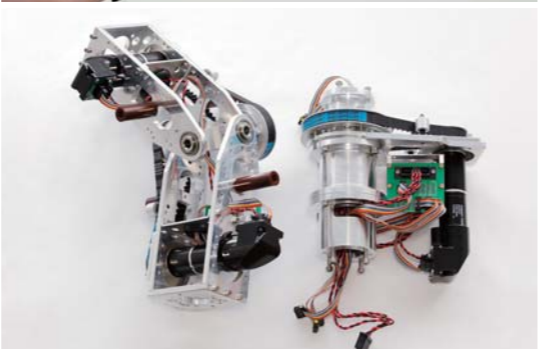
リハビリの指導を行う作業療法士が自ら装着して見本となる動作を行うだけで、その動きを簡単に記憶・再生する「手指リハビリロボット」。2009年7月に創業した株式会社アールテクスが開発したものです。きっかけは、約10年前に脳卒中で倒れた父親のリハビリだったと積山彰社長は言います。

「毎日のリハビリはつらいもので、本人はつい怠けますし、家族がつきっきりでサ

ポートするのも大変です。その上、力加減がわからずに強すぎたり、弱すぎて意味がなかったりしますが、このロボットは決められた時間、記憶させられた動作を正確に続けますから、大きな効果が期待できます」。

難しい入力操作が一切不要で、作業療法士が簡単にセットアップできる使い勝手の良さに加えて、既に発売されている関節が一つしかないフランス製のものが一台約80万円もするのに対し、同社の手指リハビリロボットは多関節でさまざまな動きに対応でき、販売予定価格も10万円台と低価格な

作業療法士の手指リハビリ運動を記憶し、患者に施する「手指リハビリロボット」。



ロボット制御工学の研究・教育用として、立命館大学の学内ベンチャー企業MMSE社と協同開発中の「ロボットキット」。3つのユニットが用意されている。

のが大きな魅力。「家庭でも使っていたきたいから」と積山社長は語っています。

技術の追求が目的ではなく 使う人の利益が重要

「とても居心地のいい会社だったので、辞めることを躊躇した」という積山社長は、堺市に本社を置く自転車部品メーカーのプ



経営者にとって重要な資金調達。「営業は苦手かと思いましたが、いるんな方に自分が作っているものをプレゼンテーションできる機会があって楽しくなりました」と積山社長。

ロジエクトマネージャーでした。それでも起業したのは、「就職して10年間勤めるところまでが自分にとっての義務教育で、卒業したら独立することは昔から決めていた」と語る積山社長。新会

社の理念は「人を助ける技術創造」です。「父親の病氣や阪神淡路大震災、さらに数年前のマネーゲームブームが、そう考えるようになった発端です。お金を右から左に動かすだけで、何も生産せずに儲けるだけの起業家はどうにも嫌でしたね」。

根っからの技術者の自分は、ものづくりで人の役に立とうと考え、積山社長がすぐに着手したのが、手指リハビリロボットだったのです。「もともと大学ではロボットを研究していましたし、既存の技術を使えばさまざまなことに応用がききます。要はロボット技術が人々にどのような利益を提供できるかが重要なのです」。

夢はロボット市場を育て、 若い技術者たちの受け皿に

手指リハビリロボットについては、すでに同様の研究を進めていた近畿大学のロボットをベースに、約2kgあったものを積山社長が500gまで軽量化。現在は、大阪市との間で経済交流の協定を結んでいるデンマークで医療認定の申請中です。また、シンガポールでも来春からさらにパージョ



デンマークで開かれた福祉・医療機器の展示会で、「手指リハビリロボット」をデモンストレーション。福祉国家だけに多くの関心を集めた。

株式会社アールテクス

代表者/代表取締役 積山彰
本社/堺市南区横塚台
設立/2009年設立
資本金/800万円
従業員数/2名
事業内容/ロボット製品開発、ロボット部品委託設計、技術開発コンサルティング



大阪営業所(下村ビル)

http://www.roobo.com/index.php?mpage=index_detail&schr=146
E-mail/tsumiyama7@gmail.com

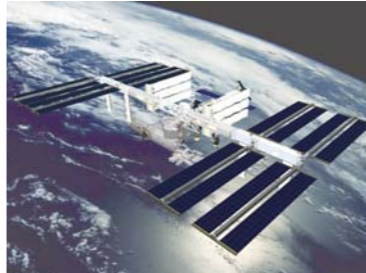
地道に開発を進めてきた特許技術が 国際宇宙ステーションに搭載されて

株式会社エスディーシー 田中弘一 会長

同社技術を使った蓄圧器が 日本実験棟「きぼう」に搭載

高度な科学技術が集積している国際宇宙ステーション。その日本実験棟「きぼう」の船内実験室に、株式会社エスディーシーの技術が使われた蓄圧器が搭載されています。エスディーシーは、ネジ・ボルトのメーカー・株式会社田中の販売会社として、1988年に設立されました。現在はその役割を変え、親会社の株式会社田中が研究開発し特許を取得したプラズマ表面硬化処理技術を使った製品の製造管理を担っています。そのエスディーシーの技術が宇宙に飛び

アメリカ、ロシア、ヨーロッパ、カナダなど世界15ヶ国が参加する国際協力プロジェクト「国際宇宙ステーション」。日本は、その一部の日本実験棟「きぼう」を開発し参加している。



航空機業界でますます需要の高まるCFRP締結用チタン合金ボルト

航空機への採用を目的に 開発をスタート

同社の「SDCプラズマ表面硬化処理技術」とは、従来は不可能とされたチタン合金への浸炭処理で、金属の表面層を硬くするもの。もともとは航空機用のチタン合金ボルトを開発する過程で生まれたものです。当時社長を務めていた田中弘一会長は「1984年にアメリカに

立つことになったきっかけは、ホームページで同社のプラズマ表面硬化処理技術を知った蓄圧器メーカーからの問い合わせでした。そのメーカーの発注先である大手重工業メーカーの審査を経て採用が内定してからも実際に搭載されるまでには、サンプルの製作や数年にわたるテストなどがあり、正式に決定したのが2007年。2008年6月に打ち上げられています。

現地法人を設立。そこで大手航空機メーカーから焼付きしないチタン合金ボルトのニーズがあることを聞き、その開発をスタートさせました。大阪府立産業技術総合研究所内に試作研究用のプラズマ浸炭炉を入れて研究開発を進め、1993年に大阪府と共同で特許を出願しました」と当時を振り返ります。

その後、量産用の大型炉も導入しましたが、どうにも不満足で、ついに同社オリジナルの新型炉まで開発。プラズマ表面硬化処理技術は装置でも特許を取得しています。同技術を施した製品の特長は、まず良好な電気伝導性。これは落雷対策が重要な航空機に大変有効です。そして焼付き防止はもちろん、非常に優れた耐磨耗性と耐食性、さらには疲労強度の向上があげられます。

国の戦略的基盤技術と認定 今後はライセンス販売を

ところが、ずっとアプローチしている大手航空機メーカーはなかなか採用を決めません。世界シェア70%のアメリカのネジメーカーが自社だけに特許を売ってほしいと申し入れてきましたが断ったといえます。「日本で誕生した技術をそ



「祖父の代から4代続くネジメーカーとして技術を究めたい。内から突き上げるその熱い思いだけでここまでやってきた」と語る田中会長。



取引先の立場に立った営業のあり方や、社員全員の提案力の向上など、人材育成で強いリーダーシップを発揮する田中弘一社長。



2008年6月の打ち上げに搭乗した星出宇宙飛行士によって、参画した人々の寄せ書きをCDにまとめ搭載された。エスディーシーの寄せ書きも入れている。

のまま売り渡したくなかった」と田中会長。すると2008年、「きぼう」での実績が評価され、同技術が国の『戦略的基盤技術高度化支援事業』に採択されました。これにより研究開発費が援助されるばかりでなく、同社の技術がいかに信頼に足る高度で重要な技術であるかの国のお墨付きをいただいたようなもの。田中会長も「これを後盾に航空機メーカーへのアプローチに弾みがつけられる」と語ります。

エスディーシーでは今後、「SDCプラ



社員研修会風景

ズマ表面硬化処理技術」の特許ライセンス販売を進めていく予定です。「航空機メーカーにしても、うちでしか製造できないボルトはリスクが高くて採用できないでしょうか？ それにこの技術を使ったボルトが標準規格になった方が市場は大きくなります。今後は燃料電池用セパレーター材料への活用などを視野に、国から紹介された電機産業や自動車業界へと事業を広げていきたい」と語る田中会長。航空機業界への参入という高いハードルを初めに設け、それに真摯に取り組んできたからこそ、今後の裾野の広がりが期待されます。



SDCプラズマ表面硬化処理装置
優秀な人材も企業の知的財産として重視する同社では、技術社員を大学院に進ませたことも。博士論文では、同社の特許技術がまとめられた。



株式会社エスディーシー

代表者／代表取締役社長 田中 弘一
 本社／堺市堺区神南辺町4-132
 テクノフロンティア堺B-1
 TEL／072-224-7477
 設立／1988年設立
 資本金／1億2,765万円
 従業員数／4名
 事業内容／プラズマ表面硬化処理を施したSDCブランド製品の製造、SDCプラズマ表面硬化処理受託加工など

<http://www.sdc-tanaka.co.jp/>

創薬ベンチャー企業として、日本の技術をアメリカで高く売る

株式会社 AB size (エービーサイズ) 王勇 社長

安全性と有効性の確認までを担う創薬ベンチャー

通常、一つの新薬が誕生する過程で、研究開発から臨床試験まででも10〜15年の年月と、数百億からの資金がかかるといわれています。そうした製薬業界で起業したのが、株式会社 AB size です。

王勇社長は「日本では創薬開発のベンチャー企業というのは珍しいでしょうね。大手製薬会社が自社や系列会社の中で、開発から販売までを完結させていますから。しかし、アメリカでは新薬開発にさまざま



来年には売却予定の経皮吸収型製剤(サンプル)。

難水溶性の成分を水溶化する技術を武器に起業

な企業が役割分担をして関わっています。当社のような小規模の創薬ベンチャー企業は、安全性と有効性を確認するところまでを担い、それが実現したところでその薬品や技術を売ります。あくまでも製薬会社が対象の B to B ビジネスですね」と語っています。

現在開発中の経皮吸収型製剤(非ステロイド系鎮痛消炎貼り薬)も、すでにアメリカで新薬開発治験承認を取得。1年目途に導出の予定です。

では実績のないベンチャー企業に認められることは少ないようで、同社の現在の主なターゲットはアメリカ市場です。「アメリカのオフィスに駐在する取締役は長くこの業界にいて、アメリカの大手製薬会社とベンチャー企業の両方でのキャリアを持っています。前臨床試験の委託先などのネットワークも広く、大変心強い存在ですね」。

小規模なベンチャーだから優秀なブレインの確保が命



「大手企業と違って全く無駄な動きがない。そうでないとベンチャー企業は生き残っていきませんから。どんなに資金繰りで大変な時にも熟睡できる社長には感心しますよ(笑)」と伊藤氏。



堺地域振興ファンドから投資を受けている王社長は「堺にオフィスを置いて感じたのは、商人の町らしいリベラルな空気。うちのような異質な企業も特別視しないのがいいですね」と語る。

創業ベンチャー企業にとって、このネットワークは生命線です。臨床試験に至るまでの複雑なプロセスではさまざまな人材が必要であり、その全てを社内を抱え込めないベンチャー企業は外部に委ねるしかありません。信頼のできるブレインをどれだけ確保できるかが重要だと王社長は語ります。

かつて大手化学メーカーに勤め、現在は王社長のブ



難水溶性の物質に高強度パルスレーザーを照射することで噴出したナノ粒子が、水中に物質が分散したコロロド溶液を作り出す。

「王社長からリーマンショック後の厳しい時でも、委託先にストックオプションで引き受けてもらったと聞いています。技術をきちんと評価できる人たちのネットワークを持っているところがすごい」と評価します。

堺地域振興ファンド

堺市産業振興センターでは、高い志のもとに企業の大きな飛躍をめざす中小企業の株式公開を支援し、堺市の産業の活性化を図るため、堺地域振興ファンドに出資を行っています。

■投資対象企業

高い成長性を有し、かつ将来の株式公開をめざす企業であり、本社もしくは主な事業所・工場が堺市内に所在する企業

■支援内容

- (1) 投資金額
投資上限は、ファンド総額の1割(通常は1社5,000万円程度)
- (2) 投資方針
投資する業種・分野は限定しません。アーリーステージの企業への投資も積極的に行います。
- (3) 支援体制
地域ファンド運営に関して経験豊富なフューチャーベンチャーキャピタル株式会社(FVC)が運営を行っています。FVCが投資先企業への経営全般に対する支援を行うのはもちろんのこと、当センターも総合的に支援します。

▶お問い合わせ先

（堺市産業振興センター 経営支援課）
TEL : 072-255-6700 FAX : 072-255-1185

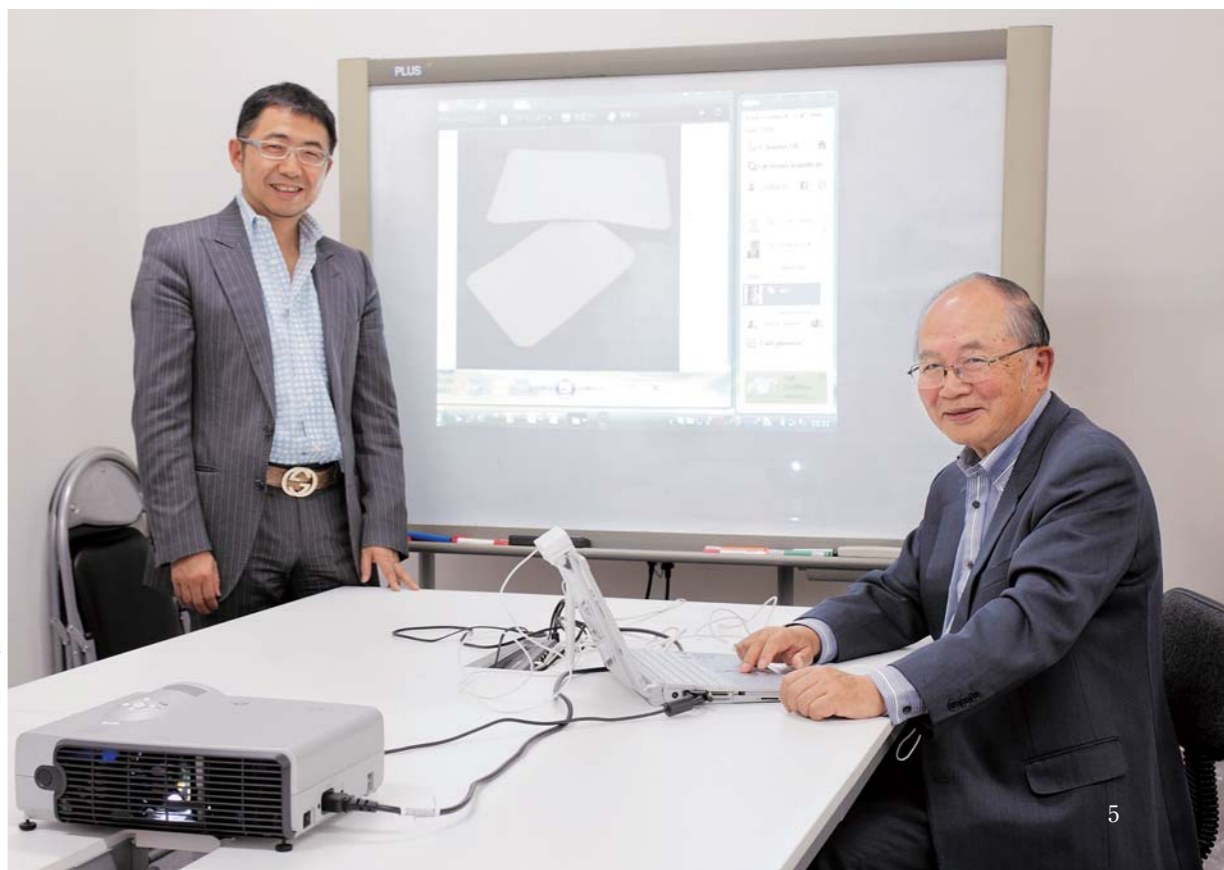
株式会社 AB size (エービーサイズ)

代表者 / 代表取締役 王勇 (理学博士)
 本社 / 堺市北区長曾根町130-42
 さかい新事業創造センター104号
 TEL / 072-257-3505
 設立 / 2007年設立
 資本金 / 2億3,544万円
 従業員数 / 5名
 事業内容 / LiNTECを用いたナノ製剤の開発事業、新薬関連企業へのLiNTEC技術提供による創業支援事業



<http://www.ysize.com/>

社開発と創業支援が同社の事業の柱となっています。しかし、日本には創薬ベンチャー企業を受け入れる環境がまだ整っていません。アメリカでこそ取得できた治験承認も、日本



日本の厚生労働省にあたるアメリカの食品医薬品局(FDA)はスタッフが多く、企業出身者が多いため、対応が柔軟でスピーディ。大手化学メーカー勤務時代の経験からアメリカの医療業界にも詳しい伊藤氏(写真右)は、王社長の頼もしいブレインだ。

海外バイヤーツアーを開催!

昨年10月27日、堺市内で海外バイヤーの堺刃物産地視察&商談会が開催されました。ジェットロの日用品(キッチン・ダイニング分野)海外バイヤー輸出展示商談会の堺市会場として実施されたもので、ジェットロ大阪本部、堺市、堺市産業振興センターの共催で行われました。

バイヤーはアメリカから4社5名、オーストラリアから1社2名の計5社7名が参加。一行はまず10月にリニューアルしたばかりの堺伝統産業会館で堺打刃物について学び、刃物製作の現場へと向かいました。

最初に訪れたのは鍛冶の榎並刃物製作所。伝統工芸士の榎並正氏の指導のもと、2人のバイヤーがベルトハンマーを使っ

たての荒たきを体験。一行は次に、研ぎの現場である森本刃物製作所を訪れ、伝統工芸士の森本光一氏が円砥で包丁を仕上げ

ていく様子を見学しました。最後は和泉利器製作所で柄付けまで見学し、ワークショップ会場へと移動しました。

ワークショップは丸三樓雪陵庵で開催。一井規調理長が堺打刃物を使ってかつらむきや三枚おろしを披露。フードコーディネーターの近藤一樹氏の解説もあり、見事な包丁さばきに感嘆の声があがっていました。ワークショップには竹山修身市長も加わって話も盛り上がり、午後の商談会のはずみになりました。



堺には伝えるべき技がある

堺伝統産業会館、オープン!

かつて東洋のベニスと呼ばれ、自由都市として栄えてきた堺。堺には“ものづくり”の歴史と、次の世代に伝えるべき“匠の技”があります。

昨年10月、堺市の伝統産業を一堂に集めた堺伝統産業会館がオープンしました。

堺市は現在、金属・機械製品製造の工業集積地として知られていますが、ルーツは鍛冶技術など、昔からの金属加工技術にあります。堺はかつて、鉄砲(火縄銃)の一大生産地でしたが、そのときの鍛冶技術が、今日の製造業の礎になっています。

堺市の伝統産業である刃物製造や自転車製造も、鉄砲鍛冶の技術がもとになっています。また伝統産業とはいえ、これらの製品は現在、世界の第一線での競争力を持っています。

自転車製造では、軽くて強いフレームを造るために鍛冶技術が必要でした。その後す野が広がり、変速機やブレーキなど様々な部品が作られるようになりました。今日では堺製の部品がないと、自転車を作れないともいわれています。

堺打刃物の名で知られている刃物類も、世界で戦っている製品です。包丁は鍛冶技術と刃付け技術の融合で、その鋭い切れ味からプロの料理人を中心に広く支持されています。日本食の普及にも後押しされ、最近では海外でも人気が高まってきています。また、最新技術で製造されている堺製のハサミ類は、園芸用・工業用を中心に日本国内はもちろん、ヨーロッパや新興国でも作業現場にはなくてはならない道具とされています。

そのほかにも会館では、南蛮貿易の時代に堺で製造が始まったとされる線香、ゆかた生地として有名な注染和晒、北前船で運ばれていた昆布、日本三大緞通のひとつである堺緞通、和菓子の展示や販売をしています。堺の逸品、匠の技を「見て」「感じて」「持ち帰る」ことのできる堺伝統産業会館にぜひお越しください。

1階 ショップ堺いち

刃物、線香、注染和晒・ゆかた、昆布、敷物、和菓子など堺の伝統産業の逸品と名産品を販売。

1階 匠のひろば

刃物、線香、和ざらし・ゆかた、敷物、昆布、自転車、鯉幟、和菓子の体験・学習・展示コーナー。包丁研ぎの実演や、ものづくりの実演・体験イベントも随時開催。

2階 堺刃物ミュージアム

堺の誇る堺打刃物・堺刃物のミュージアム。工程見本や種類見本、めずらしい刃物の展示や、プロ用刃物・高級刃物の販売をしています。

◆ 包丁の研ぎ直しを受け付けています ◆

- ・料金 1丁1,000円から。
- ・土・日曜日は当日お渡し可能。
※但し、午前11時～午後3時受付分に限る
- ・包丁の柄の修理やハサミの研ぎ直しもできます。

お問い合わせ 堺刃物商工業協同組合連合会
TEL 072-233-0118

堺伝統産業会館

〒590-0941 堺市堺区材木町西1丁1-30
TEL 072-227-1001 FAX 072-227-5006
ショップ堺いち TEL 072-233-2211
URL www.sakaidensan.jp MAIL info@sakaidensan.jp
■開館時間: 10:00~17:00
■休館日: 年末・年始
(点検等の為、臨時休館する場合があります)

■入館料: 無料
■交通のご案内
・阪堺線「妙国寺前」下車 南西へ徒歩約3分
・南海本線「堺」下車 北東へ徒歩約10分
※ご来館には公共交通機関をご利用ください。



環境・低炭素化技術企業認定事業

「第1回さかい環境チャレンジ企業認定」

認定企業決定!!

自社製品若しくは技術を活かして、低炭素化・省エネルギーを中心とした環境ビジネスに参入している堺市内の28社の中小企業者を「さかい環境チャレンジ企業」として認定しました。詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.sakai-ipc.jp/news/news/post-74.html>

企業名	対象商品・技術概要
1 (株)アイテック	超臨界ナノ粒子合成装置
2 (株)イクロス	木質バイオマスボイラー
3 上商(株)	環境と健康に配慮した安全素材のやさしい壁紙
4 関西触媒化学(株)	リチウムイオン電池材料
5 ケイ・エイチ工業(株)	有害物質除去に優れた集塵機
6 コーケン・テクノ(株)	ハイブリッド形HVOF溶射システム
7 Jトップ(株)	住宅用小型循環型水処理装置
8 (株)シフト	尿素SCRシステム専用尿素水溶液に関する製造技術
9 ジャパン・ソーラー(株)	太陽光発電システム(結晶・薄膜シリーズ)
10 (株)ダイネツ	風力発電部品リング材専用焼入吊治具の開発
11 ダイネツ商事(株)	太陽光電池パネル受け金具
12 太陽パーツ(株)	入子の取替え可能な(カセット式)ダイカスト用金型
13 大和化成(株)	大型リチウムイオン電池封止部品(ガスケット)
14 高良鍍金(株)	電気亜鉛めっき・3価クロメート処理
15 タニ工業(株)	PCB廃棄物オンサイト型無害化処理装置
16 (株)テクノアオヤマ	エアースケープ式ナットフィーダー、スタッドボルトフィーダー
17 (株)中村超硬	ダイヤモンドソーワイヤ
18 根来産業(株)	使用済みペットボトルの再生・原料化
19 八田工業(株)	ミストコントロールによる真空熱処理加工
20 富士高周波工業(株)	レーザ焼入れ
21 フジコウヨウ(株)	ローコストで提供する汚染環境の無害安定化処理
22 宝栄産業(株)	遮熱エコ塗料
23 村上精機(株)	ロータリーエンジン発電システム
24 (株)八木萬	スナゴケを使用した緑化ユニット
25 (株)山崎	流水利用式マイクロ水力発電装置
26 ユーアイニクス(株)	高効率安定化電源およびコンバータ技術
27 リグナイト(株)	黒鉛-フェノール樹脂複合材料(GPS)
28 (株)ワイズ・ラブ	電子ペーパー利用ソリューション

「イベントホール・セミナー室・会議室」貸会場のご案内

より便利により快適にご利用いただくために、空き室の情報提供を行うとともに、設備の改善を行います。皆様のご利用をお待ちしております。

インターネットから空き状況を確認できます！

インターネットに接続したパソコンまたは携帯電話から、堺市施設予約システムを通じて、施設の空き状況の検索や仮予約（一部制限あり）ができます。仮予約には、事前に窓口での利用者登録が必要です。

堺市施設予約システムに関する詳細は下記をご参照下さい。（センターホームページからもリンクしています。）

パソコンURL http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_joshi/shisetsu/index.html

携帯電話URL <http://www.city.sakai.lg.jp/i/shisetsu/top.html>



会議室・セミナー室の空調が改善されます！

平成24年2月22日(水)から4月1日(日)まで、空調設備の改修工事に伴い本館3階・4階・5階の施設は貸出停止となります。但し、イベントホール及び本館2階小ホールは工事期間中もご利用いただけます。この工事により、これまで館全体で集中管理されていた空調を、各会議室・セミナー室において個別に調節することが可能になり、より快適にご利用いただけるようになります。工事期間中はご迷惑をおかけ致しますが、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。



イベントホール(展示会形式)

イベントホール(ホール形式)



会議室1

セミナー室2

上記内容に関するお問合せ・貸会場のお申し込みは
堺市産業振興センター 総務課
TEL:072-255-0111

1階常設展示場 堺のものづくりコーナー 出展企業のご紹介 浅香工業株式会社

創業から350有余年の間、時代の変遷の中で常に「人の生活」をテーマに、アウトドア用品から物流システム事業まで幅広く事業展開を重ねてまいりました。浅香工業は「ハイタッチからハイテックまで」をスローガンに、ひたむきな行動力と豊かな創造力でさらなる前進をしていきます。

当センター1階では、ものづくり産業全般の製品を展示しています。さらにパネルでも企業の説明を行い、堺の今の産業を分かりやすく紹介しています。IPCプレスでは毎回展示企業をご紹介します。

『良品声なくして人を呼ぶ』(経営理念)

■主な製品情報

スコップ・ショベル、土工農具、園芸用品、物流機器、店舗什器等

〒590-0928 堺市堺区海山町2丁117
TEL 072-229-5221
<http://www.asaka-ind.co.jp>

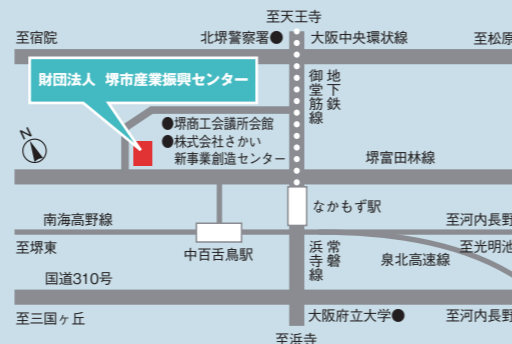


中小企業を全力応援

財団法人 堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200
<http://www.sakai-ipc.jp/>



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m ◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m ※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

ヒマラヤの麓の小さな村に 初めての中・高校を建設



学ぶことの喜びを知った子どもたちの表情はイキイキと輝いている。



「その地域のシンボルとして、子どもたちや先生が誇りに思えるものを目指した」という学校は、日本建築学会賞やイタリアの国際石材建築賞を受賞している。

車で行くことのできる町から歩いて2日はかかるというネパールの奥地、フィリムの村。中学校と高校がないために、どうせ先はないと小学校さえ通わせない親も多かったといわれています。野田隆史さんたちが、この地の子どもたちに贈ったのは学校だけでなく、夢と希望でした。

学びたくても学校がない子どもたちがいる。野田さんは視察でチベットや中国福建省などを訪れた時にそれを目の当たりにしました。「こうした子どもたちに学校を建ててあげたい」という気持ちにかられ、帰国後も情報を収集。学校建設支援を行っているNPO法人に技術協力を申し出ましたが、欲しいのは資金だけと言われ、学校のあり方にこだわった野田さんたちは自分たちで一からやることを決意しAAFを設立しました。

野田さんたちが考える学校とは、「とりあえず『箱』があればいいんじゃない。村の誇りと希望のシンボルとなる建物を」ということでした。慣れない資金集めも、大量の資料をまとめて国の補助金を獲得したり寄付金を募ったりして確保。2001年秋に、11教室ある校舎と図書館や職員室などを整備する一期工事に着工しました。ところが、現地の村人たちの時間感覚の違いや賃上げ交渉などで、工事は計画通りに進まず、一度中断します。現地ではその学校に

通うことになる9つの村の村長たちが集まり話し合いが行われました。結果、この学校は自分たちが求めていたものであり、完成に向けて協力しなければならぬことを確認し合ったのだとか。その後、子どもたちの宿舎や食堂を整備した二期工事も完成し、現在は三期工事として教員の宿舎の整備を計画中です。

最初の学校ができて約9年。3人の卒業生が教師となって戻ってきました。「その卒業生が、今の子どもたちに夢を与えています。嬉しいことですね。いつかは無医村のこの地に医療施設も作りたい。その時は、医師になった卒業生たちが帰ってきてくれればと願っています。最終的には、私たちが手を貸さなくても自立した運営が行われることが理想」と、野田さんの夢も広がります。

アジアに 学校などを作るための ご協力をお願いします

AAFでは、現在、教員と生徒たちの宿舎の建設を計画中です。皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。寄付は一口1,000円です。詳しくは、AAFのホームページをご覧ください。
<http://aaf.cool.ne.jp/>

二百年余りの歴史を礎に、 新感覚の製品づくりに挑戦

かつて江戸時代には、二百軒近くの醤油屋が

堺の町に軒を並べ、堺の醤油は遠く

江戸でも重宝にされたとか。

時代を経て多くの醤油屋が姿を消

したなか、創業二百年余りの歴史を

今日まで継いできたのが大醬株式会社です。

今も新しい時代に生きる製品づくりが行われています。



大醬株式会社の歴史は、1800年に河内屋又兵衛が創業した「河又醤油」に始まります。当時、堺の醤油溜りは、江戸時代の百科事典ともいえる『和漢三才図会』など多くの古文書に名物として紹介されており、江戸へも「下り醤油」として大量に送られていましたが、なかでも河又醤油の醤油は、その品質の高さから一升108文と他と比べて高値で取引されていたといえます。

やがて明治時代には、老舗の暖簾に安住することなく、醤油造りの近代化に取り組まれました。まず、独自の醤油麹菌

(河又菌)の純粋培養を成功させ、さらに明治40年には、今日の醤油製法の先駆け

となる近代的設備を導入。高品質の醤油

を安定して大量生産する仕組みを整えた

のです。同社では河又菌も工場設備も広く公開し、全国の醤油業の近代化に大きく貢献しました。

このように常にその時代に合わせて、

新しいものに挑戦してきた精神は、今日

の大醬にも受け継がれ、さまざまな新製

品を生み出しています。例えば、本醸造

醤油をベースとしたポン酢にコチジャン

や豆板醤の辛みを加えた「キムチぼんず」

には、すでにファンも定着しているとか。新発売のカレーのポン酢「咖喱の梵醋」は、社内の若い営業マンからのアイデア。カレーの黄色を生かすよう何度も試作を繰り返して完成しました。社員一人ひとりの自由な発想もくみ上げる柔軟な姿勢が、創業二百年を越えてなお愛され続ける理由なのかもしれません。

大醬株式会社



もろみを搾る「油圧搾機」。
かつては石の重みで搾っていた。



「かつては、堺が醤油の一大産地だったことを知る人も少ないのではないのでしょうか。私たちはこの堺で、あくまでも関西の味にこだわり、ここから関西の味を全国へ、さらには日本の食文化を世界へ広げていきたいですね」と抱負を語る河盛社長。河内ワインやみりんを加えて旨味を引き

出して、水なすの漬物に合うように造られた「泉州かけ用醤油」や、こだわりの本醸造醤油「王醬」などの商品は、同社ホームページのほか、堺伝統産業会館や高島屋堺店、ハーベストの丘などで購入できます。

堺市堺区石津北町20
☎072-243-0184 (代)
<http://www.dai-sho.co.jp>



河盛幹雄社長(農学博士)

